

バリアフリー整備・徴収計画

鉄軌道事業者名	東京地下鉄株式会社
---------	-----------

整備方針	
全期間	・ホームドア全駅整備完了 ・エレベーター乗換及び複数ルート整備、エスカレーター整備、バリアフリートイレ整備の推進 ・各線各駅のホームと車両の段差・隙間縮小の完了 ・ホームドア、エレベーター等のバリアフリー設備の更新及び維持管理
2021～2025年度	・ホームドア全駅整備完了 （一部の大規模改良工事実施中の駅を除く） ・エレベーター乗換及び複数ルート整備、エスカレーター整備、バリアフリートイレ整備の推進 ・各線各駅のホームと車両の段差・隙間縮小の推進
2026～2030年度	・ホームドア全駅整備完了 （一部の大規模改良工事実施中の駅を除く） ・エレベーター乗換及び複数ルート整備、エスカレーター整備、バリアフリートイレ整備の推進 ・各線各駅のホームと車両の段差・隙間縮小の完了
2031年度以降	・ホームドア全駅整備完了 ・ホームドア、エレベーター等のバリアフリー設備の更新及び維持管理

料金額				
券種	定期外		定期券	
	普通券 (磁気券)	普通券 (IC)	通勤定期券	通学定期券
設定額 (円)	10	10	(※1)	—
年間徴収額 (百万円)	10,844 (※2)		5,704	—
料金徴収 対象駅	全180駅 (※3)			
備考	(注) 設定額は税込額 ※1 通勤定期券、全線定期券への設定料金 1か月：370円、3か月：1,050円または1,060円、6か月：1,990円または2,000円 ※2 上記券種のほか、各種回数券、団体乗車券からの徴収額を含む。 ※3 千代田線 綾瀬駅・北千住駅間相互発着に適用する特定運賃には、鉄道駅バリアフリー料金を加算しない。 鉄道駅バリアフリー料金を加算した運賃に関する詳細は、別途周知する。			

※普通券の設定額については、大人1乗車当たりの料金を記載すること。

※定期券の設定額については、全ての定期券料金から算出した1乗車当たりの平均額を記載し、備考欄に各期間別（1か月・3か月・6か月など）の料金を記載すること。

※回数券や企画乗車券などの券種から徴収する場合は、備考欄に該当する券種名を記載するとともに、定期外の年間徴収額に該当する券種からの年間徴収額も含めて記載すること。

年間徴収額	16,548 百万円
徴収期間	7.2 年間（2023.3～2030.5） ※2030年6月以降の継続について検討予定
総徴収額	116,657 百万円
総整備費	116,998 百万円 2025年度までの実績(計画)：48,394百万円 2026～2030年度の計画：55,292百万円 2031年度の計画：13,312百万円 ※2032年度以降の継続について検討予定

バリアフリー整備・徴収計画（計画期間：2021.4～2026.3）

整備内容		
(1) 設置・改良費（附帯費用含む）		
設備名	整備数	整備費
ホームドア	39 (34) 駅※1 81 (70) 番線 ※1	17,932 百万円※2
エレベーター	3 駅 5 基	2,932 百万円※3
エスカレーター	2 駅 15 基	419 百万円
スロープ	1 駅 2 ヶ所	7 百万円
内方線付点状ブロック	- 駅 - 番線	0 百万円
段差隙間縮小に資する設備	50 駅 107 番線	637 百万円
バリアフリートイレ	4 駅 5 ヶ所	258 百万円※3
車両のフリースペース	10 編成 80 両	85 百万円
その他	168 駅	203 百万円
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームドア：新設（21(34)駅45(70)番線）及び延伸（18駅36番線） ※1 カッコ内はホームドア整備の残工事に鉄道駅バリアフリー料金を活用する駅数。 ※2 ホームドア支障物センサ整備費を含む。 ※3 2026年度以降整備完了予定の整備費含む。 ・段差・隙間縮小に資する設備： 高上げ（5駅12番線）、くし状ゴム（50駅107番線）、可動ステップ（5駅8番線） ・その他：視覚障害者誘導用ブロック、手すり、自動ドア、案内サイン、 券売機（フリースペース化）、運行情報提供設備（駅情報配信ディスプレイ） 	
(2) 更新費（附帯費用含む）		
① 設備更新		
設備名	整備数	整備費
ホームドア	41 駅 80 番線	3,349 百万円
エスカレーター	17 駅 88 基	5,138 百万円
案内サイン	180 駅	517 百万円
段差隙間縮小に資する設備	13 駅 18 番線	192 百万円
その他	3 駅	297 百万円
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームと車両の段差・隙間縮小に資する設備：可動ステップ ・その他：自動旅客案内装置、運行情報配信設備システム改修 	
② 車両更新		
路線名	整備数	整備費
半蔵門線	19 編成 190 両	3,157 百万円
ホームドア整備等との一体性について	半蔵門線ホームドアの早期整備等を実現するため、ホームドアに対応したATO装置等搭載かつ、車両の床面高さを低くした車両等に更新する。（整備費はホームドア整備・段差解消に資する装置のみ対象）	
(3) 維持管理費・収受システム改修費・その他費用（駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）		
維持管理費（附帯費用含む）	12,027 百万円	
収受システム改修費	40 百万円	
その他費用 （駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）	1,204 百万円	
備考	・維持管理費：ホームドア、エレベーター、エスカレーター、自動旅客案内装置、案内サイン 等	

※設備欄において「その他」を選択した場合には、備考欄に当該設備名を記載すること。

計画期間内の整備費（（1）～（3）の合計）	48,394 百万円
-----------------------	------------

計画期間内の料金徴収によるホームドア設置番線数・段差解消駅数		
ホームドア設置番線数	45 番線	
段差解消駅数	一経路確保駅	0 駅
	二経路以上確保駅	3 駅

バリアフリー整備・徴収計画（計画期間：2026.4～2031.3）

整備内容			
(1) 設置・改良費（附帯費用含む）			
設備名	整備数		整備費
ホームドア	1 駅	1 番線	2,000 百万円※
エレベーター	7 駅	9 基	991 百万円
エスカレーター	2 駅	6 基	361 百万円
スロープ	- 駅	- ヶ所	- 百万円
内方線付点状ブロック	1 駅	1 番線	4 百万円
段差隙間縮小に資する設備	51 駅	107 番線	987 百万円
バリアフリートイレ	1 駅	1 ヶ所	58 百万円
車両のフリースペース	19 編成	166 両	358 百万円
その他		90 駅	752 百万円
備考	※ ホームドア支障物センサ整備費を含む。 ・段差・隙間縮小に資する設備： 高上げ（3駅6番線）、くし状ゴム（51駅107番線）、可動ステップ（6駅9番線） ・その他：視覚障害者誘導用ブロック、手すり、幅広自動改札、自動ドア、 券売機（フットスペース化）、運行情報提供設備（駅情報配信ディスプレイ）		
(2) 更新費（附帯費用含む）			
① 設備更新			
設備名	整備数		整備費
ホームドア	125 駅	249 番線	21,090 百万円
エスカレーター	24 駅	96 基	6,235 百万円
案内サイン		180 駅	1,180 百万円
段差隙間縮小に資する設備	20 駅	25 番線	504 百万円
その他		88 駅	3,285 百万円
備考	・段差隙間縮小に資する設備：可動ステップ ・その他：幅広自動改札、自動券売機		
② 車両更新			
路線名	整備数		整備費
-	- 編成	- 両	- 百万円
ホームドア整備等 との一体性について			
(3) 維持管理費・収受システム改修費・その他費用（駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）			
維持管理費			16,565 百万円
収受システム改修費			- 百万円
その他費用 （駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）			922 百万円
備考	維持管理費：ホームドア、エレベーター、エスカレーター、自動旅客案内装置、案内サイン 等		

※設備欄において「その他」を選択した場合には、備考欄に当該設備名を記載すること。

計画期間内の整備費（（1）～（3）の合計）	55,292 百万円
-----------------------	------------

計画期間内の料金徴収によるホームドア設置番線数・段差解消駅数		
ホームドア設置番線数	1 番線	
段差解消駅数	一経路確保駅	1 駅
	二経路以上確保駅	6 駅

バリアフリー整備・徴収計画（計画期間：2031.4～2032.3）

整備内容			
(1) 設置・改良費（附帯費用含む）			
設備名	整備数		整備費
ホームドア	1 駅	2 番線	240 百万円※
エレベーター	- 駅	- 基	- 百万円
エスカレーター	- 駅	- 基	- 百万円
スロープ	- 駅	- ヶ所	- 百万円
内方線付点状ブロック	- 駅	- 番線	- 百万円
段差隙間縮小に資する設備	1 駅	2 番線	80 百万円
バリアフリートイレ	- 駅	- ヶ所	- 百万円
車両のフリースペース	5 編成	38 両	70 百万円
その他		1 駅	4 百万円
備考	※ ホームドア支障物センサ整備費を含む。 ・段差・隙間縮小に資する設備：可動ステップ（1駅1番線） ・その他：視覚障害者誘導用ブロック		
(2) 更新費（附帯費用含む）			
① 設備更新			
設備名	整備数		整備費
ホームドア	22 駅	44 番線	2,262 百万円
エレベーター	16 駅	21 基	525 百万円
エスカレーター	7 駅	18 基	1,072 百万円
案内サイン		180 駅	280 百万円
段差隙間縮小に資する設備	3 駅	5 番線	80 百万円
その他		105 駅	5,581 百万円
備考	・段差隙間縮小に資する設備：可動ステップ ・その他：自動旅客案内装置、幅広自動改札、自動券売機		
② 車両更新			
路線名	整備数		整備費
-	- 編成	- 両	- 百万円
ホームドア整備等 との一体性について			
(3) 維持管理費・収受システム改修費・その他費用（駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）			
維持管理費			2,986 百万円
収受システム改修費			- 百万円（※）
その他費用 （駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）			132 百万円（※）
備考	・維持管理費：ホームドア、エレベーター、エスカレーター、自動旅客案内装置、案内サイン 等 ※ 2032年度以降の本制度活用の継続について検討予定のため、本制度終了時に必要となる収受システム改修費及び駅務機器改修費等について、本様式には計上していない。		

※設備欄において「その他」を選択した場合には、備考欄に当該設備名を記載すること。

計画期間内の整備費（(1)～(3)の合計）	13,312 百万円
-----------------------	------------

計画期間内の料金徴収によるホームドア設置番線数・段差解消駅数		
ホームドア設置番線数	2 番線	
段差解消駅数	一経路確保駅	0 駅
	二経路以上確保駅	0 駅